本書は製品とともに大切に保管してください

N8160-75
外付MO(USB)
取扱説明書

まえがき

本書は、N8160-75 外付MO(USB)(以下「本製品」と呼びます)を正しく、安全に設置・使用するための手引きです。本製品を取り扱う前にお読みください。また、本製品を使用する上でわからないこと、不具合が起きたときにもぜひご利用ください。

本書の構成と読み方

本製品を取り扱う前に2ページの「使用上のご注意」を必ずお読みください。

本書は4つの章と付録(A～C)から構成されています。本製品を購入されてから初めて取り扱う場合は第1章から順に読んでください。本製品の取り扱い方法を知りたい場合は、第2章から読んでください。また、本製品に異常が起きた場合は第4章を参照してください。

次にそれぞれの章で説明される内容について簡単に説明します。

「第1章　初めてお使いになるとき」	本製品の特長と装置の取り付け方法を順を追って説明します。
「第2章　日常の使用方法」	光磁気ディスクを本製品にセットする方法、および取り出し方やデータの取り扱いについて説明します。
「第3章　クリーニング」	本製品、および光磁気ディスクのクリーニング方法について説明します。
「第4章　障害処理チャート」	本製品が思うように動かないときは装置の故障を疑う前にまずここで示すチャートを参照してください。
「付録A　仕　様」	本製品の仕様を記載しています。
「付録B　光磁気ディスクについて」	光磁気ディスクの取り扱い方法について説明します。
「付録C　フォーマットに関する注意事項」	光磁気ディスクをフォーマットするときの注意事項を示します。

本書は必要な時にすぐに参照できるように必ずお手元に保管してください。
「使用上のご注意」を必ずお読みください。

使用上のご注意　～必ずお読みください～

本製品を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

また、本文中の名称については 13 ページの「各部の名称」をご参照ください。

安全にかかわる表示について

本書では、危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されています。

人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。

注意

火傷やケガなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は、次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。

	注意の喚起	この記号は、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。
	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。
	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。

<本書での表示例>

本書で使用する記号とその内容

注意の喚起

	感電などのおそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	特定しない一般的な注意・警告を示します。		

行為の禁止

	本製品を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。		特定しない一般的な禁止を示します。

行為の強制

	本製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明については巻頭の『安全にかかわる表示について』の説明を参照してください。

全般的な注意事項

⚠警告

人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない

本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御などを目的とした使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用した結果、人身事故、財産損害などが生じても弊社はいかなる責任も負いかねます。

煙や異臭、異音がしたまま使用しない

万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに本体装置の電源をOFFにして電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。

分解・修理・改造はしない

絶対に分解したり、修理・改造を行ったりしないでください。本製品が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。

針金や金属片を差し込まない

通気孔やカートリッジ挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。

設置・本製品の移動・保管・接続に関する注意事項

⚠注意

指定以外の場所に設置・保管しない

本製品を次に示すような場所に置かないでください。火災の原因となるおそれがあります。

- ホコリの多いところ
- 給湯器のそばなど湿気の多いところ
- 直射日光が当たる場所

腐食性ガスの存在する環境で使用または保管しない

腐食性ガス(二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど)の存在する環境に設置し、使用しないでください。
また、ほこりや空気中に腐食を促進する成分(塩化ナトリウムや硫黄など)や導電性の金属などが含まれている環境へも設置しないでください。装置内部のプリント板が腐食し、故障および発煙・発火の原因となるおそれがあります。
もしご使用の環境で上記の疑いがある場合は、販売店または保守サービス会社にご相談ください。

指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

本製品に使用されているインタフェースケーブル以外のコードを使わないでください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすおそれがあります。

運用中に関する注意事項

⚠注意

ペットを近づけない

本製品にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が装置内部に入って火災や感電の原因となるおそれがあります。

保守・点検に関する注意事項

⚠注意

オプション機器などで指定された部分以外を触れたり、分解したりしない

本製品の点検・修理は、販売店または最寄りの保守サービス会社へご依頼ください。オプション機器などで指定された部分以外を触れたり、分解したりすると感電するおそれがあります。

取り扱い上の注意

本製品を使用するときに注意していただきたいことを次に示します。これらの注意を無視して、本製品を使用した場合、本製品または資産(データやその他の装置)が破壊されるおそれがありますので必ず守ってください。

- 本製品のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいてください。電波による誤動作の原因となるおそれがあります。
- 本製品はUSB ハブを経由しての接続は不可となります。
- 本製品は本体装置のUSB コネクタへ直接接続してください。
- 本製品を縦置きで使用することはできません。
- 本製品に光磁気ディスクを挿入したまま移動しないでください。本製品の故障の原因となります。
- 光磁気ディスクの読込み/書き込み処理が完了したら、光磁気ディスクを取り出し、本製品を本体装置から取り外してください。
- 本製品が動作している間は電源をOFFにしないでください。本製品の故障の原因となったり、記録したデータを失ったりすることがあります。
- 光磁気ディスクの挿入／取り出しは、本製品が光磁気ディスクの挿入／取り出しを行える状態になっていることを確認してから行ってください。無理やり光磁気ディスクを挿入したり、取り出したりすると、本製品および光磁気ディスクが破損することがあります。
- 光磁気ディスクは本体装置の起動後に挿入してください。また、取り出しはシステムを終了する前に行ってください。光磁気ディスクを挿入したまま、本体装置を起動したり、終了したりするとデータが壊れるおそれがあります。
- 光磁気ディスク以外のものを本製品に挿入しないでください。本製品の故障の原因となります。特に光磁気ディスクをケースから取り出すときに、光磁気ディスクの取扱説明書やラベルなどがくっついていることがありますので注意してください。
- 定期的に本製品のリード／ライトヘッドを清掃してください(22ページ参照)。本製品を長期間使用すると、リード／ライトヘッドが汚れてくる場合があります。

本製品の取り外しについて

本製品を本体装置から取り外すときは、本製品のBUSYランプがオレンジ色に点滅または点灯していないことを確認してから、取り外してください。
Windows Server 2003、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista動作中は、必ずOS上での取り外し操作を実施した後に取り外してください。

> 本製品に光磁気ディスクをセットした状態でBUSYランプがオレンジ色に点滅または点灯中に取り外すと光磁気ディスクのデータが破壊されるおそれがあります。

Windows Server 2003、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista動作中に本製品の取り外し操作を実施するためには、タスクバー上に表示される下記の名称のアイコンで行います。

Windows Server 2003、Windows XP、Windows Vista
◆ハードウェアの安全な取り外し

Windows 2000
◆ハードウェアの取り外し

製品寿命について

本製品の製品寿命は5年です。

第三者への譲渡について

本製品を第三者に譲渡(または売却)する時には、必ず本書を含むすべての添付品を合わせて譲渡(または売却)してください。

本製品・消耗品の廃棄について

本製品の廃棄または、使用できなくなった光磁気ディスクやクリーニングディスクの廃棄については各自治体の廃棄ルールに従ってください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。

商標について

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

オペレーティングシステムの表記について

Windows Server 2003は、Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition operating systemおよびMicrosoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition operating systemまたは、Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition operating system およびMicrosoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition operating systemの略です。
Windows 2000 はMicrosoft® Windows® 2000 Server operating systemおよびMicrosoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemの略称です。
Windows XPは、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating systemおよびMicrosoft® Windows® XP Professional operating systemの略称です。
Windows Vistaは、Microsoft® Windows Vista™ Business operating systemの略称です。

ＶＣＣＩについて

この装置は、クラスＢ情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に接近して使用されると受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

日本国外でのご使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対して罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

目　次

第1章　初めてお使いになるとき

本製品を初めてお使いになる場合は、この章からお読みください。
ここでは、本製品の特長や梱包箱を開けてから本製品をご使用できるようにするまでの作業を順を追って説明します。

本製品の特長

本製品は、Express5800シリーズ用のUSBインタフェースを持つ光磁気ディスクドライブです。

- **USB2.0インタフェース対応**

  本製品は、USB2.0の仕様を採用した外付型光磁気ディスクドライブです。

- **4つの容量のディスクに対応**

  本製品は3.5型カートリッジ型で、ISO規格に準拠した128MB、230MB、640MB、1.3GBの記憶容量を持つ光磁気ディスクへの読み込み(リード)／書き込み(ライト)ができます。

本製品、および使用するソフトウェアについて不明な点がありましたら、お買い上げの販売店へご相談ください。

構成品

本製品の梱包箱に収納されている構成品は以下のとおりです。確認してください。

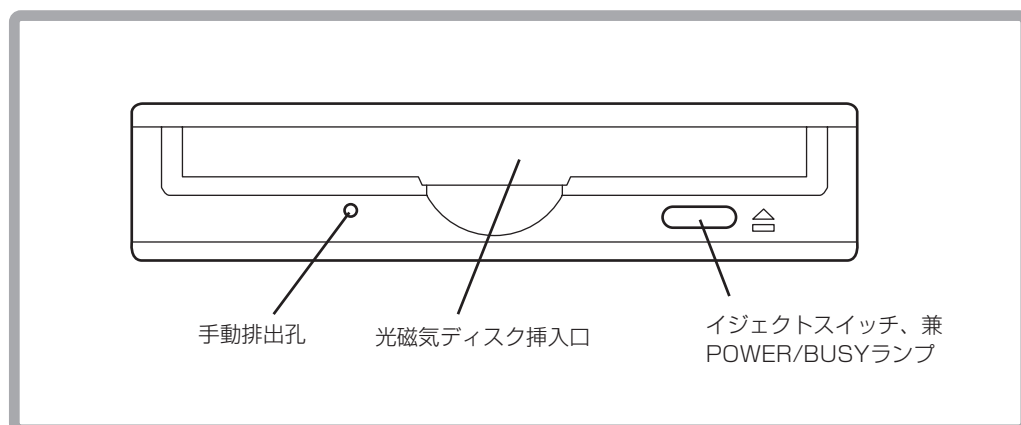
項番	品名	数量	備考
1	N8160-75 外付MO（USB）	1	本製品
2	USBインタフェースケーブル	1	
3	取扱説明書	1	本書
4	クリーナディスク	1	
5	強制イジェクトピン	1	
6	USB-MO用　補助ドライバ	1	指定番号：856-126787-001

- 本製品を譲渡する場合には、本書を併せて譲渡してください。
- 箱と緩衝材は本製品の移動時や保管時に使用しますので大切に保管しておいてください。
- 本製品には、データ用光磁気ディスクは含まれていません。販売店で別途購入してください。
- 『保証書』は、販売店で所定事項を記入してお渡しします。記載内容を確認の上、大切に保管してください。保証期間中に故障した場合は、『保証書』の記載内容に基づき無料修理いたします。

各部の名称

本製品の設置や取り扱い時に使用する部品の名前とその位置を示します。

装置前面（フロントパネル）

本製品の前面にある操作盤（「フロントパネル」と呼ぶ）には、本製品を操作するためのボタンや装置の状態を知らせるランプなどがあります。
フロントパネルのボタンやランプについての詳細は16ページを参照してください。

装置背面

本製品の背面には、USBコネクタがあります。

補助ドライバのインストール

N8160-75 外付MO（USB）を使用する場合には、OSのタイムアウト値の変更が必要です。以下の手順に従って、ディスクタイムアウト値の変更を行ってください。

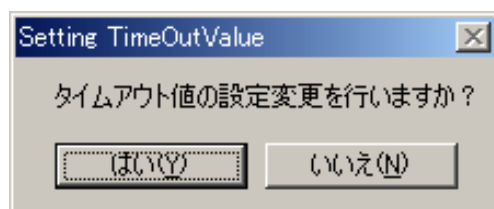
Windows Vistaでは、インストールする必要はありません。

タイムアウト値の変更手順

次の手順に従ってOSのディスクタイムアウト値の変更を実施します。

1. 「USB-MO用 補助ドライバ」と書かれたFD媒体をFDDにセットする。

2. エクスプローラなどを使って、FD媒体の「UPDATE.VBS」を起動する。

3. 以下のメッセージが表示されるので「はい(Y)」をクリックする。

4. 以下のメッセージが表示されるので「OK」をクリックし、Windowsを再起動する。

以上でタイムアウト値の変更は完了です。

第2章　日常の使用方法

ここでは、本製品を日常お使いになるときの取り扱い方法について説明します。光磁気ディスクに関する説明や取り扱いに関する注意事項については27ページをご覧ください。

本体装置との接続

本製品添付のUSBインタフェースケーブルを使用して以下の手順で本体装置へ接続します。

1. USBインタフェースケーブルの大きい方のコネクタを本体装置のUSBコネクタへ接続する。
2. USBインタフェースケーブルの小さい方のコネクタを本製品のUSBコネクタへ接続する。

電源のON/OFF

本製品への電源は、USBインタフェースから供給されています。取り付けた本体装置の電源をONにすれば、自動的に本製品の電源もONになります。また、取り付けた本体装置の電源をOFFにすれば、本製品の電源もOFFになります。

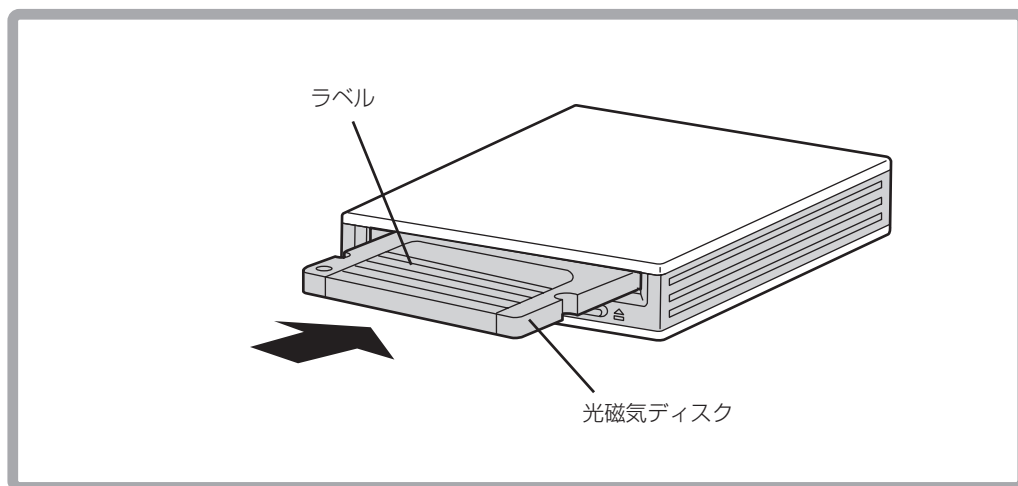
電源のONの状態の時は、本製品のPOWER/BUSYランプが緑色に点灯します。

- 取り付けた本体装置の電源のON/OFFを必要以上に繰り返さないでください。本製品、および取り付けた本体装置や接続している他の機器の誤動作や故障の原因となります。
- 本製品前面にあるイジェクトスイッチを押したまま、取り付けた本体装置の電源をONにしないでください。本製品の内部設定が変更され、本製品、および取り付けた本体装置や接続している他の機器の誤動作や故障の原因となります。
- 本製品前面にあるPOWER/BUSYランプがオレンジ色に点灯している間は本体装置の電源をOFFにしないでください。光磁気ディスク上のデータの一部、またはすべてが失われることがあります。

イジェクトスイッチ、兼POWER/BUSYランプについて

本製品前面のフロントパネルには、イジェクトスイッチ、兼POWER/BUSYランプがあります。

イジェクトスイッチは、本製品にセットした光磁気ディスクをイジェクト(排出)するときに押します。ただし、本体装置によってイジェクトを禁止されているときは、このスイッチを押しても光磁気ディスクはイジェクトされません。

- NTFSでフォーマットされた光磁気ディスクの場合、光磁気ディスクはOSによりロックされます。エクスプローラ上で本製品を選択して右クリックし、「取り出し」を選択することにより、光磁気ディスクをソフトイジェクトできます。
- Windows環境下では、必ずソフトイジェクトにより光磁気ディスクを取り出してください。データ保存中にイジェクトボタンを押してしまうと光磁気ディスクが取り出され、正しくデータが保存されない場合があります。
- POWER/BUSYランプがオレンジ色に点灯している間はイジェクトボタンを押さないでください。

POWER/BUSYランプは、セットした光磁気ディスク内のデータのシーク／リード／ライト中やフォーマット中にオレンジ色に点灯します。

光磁気ディスクのセット

次の手順に従って光磁気ディスクを本製品にセットします。光磁気ディスクに関する説明や取り扱いに関する注意事項については27ページをご覧ください。

- 光磁気ディスクはていねいに取り扱ってください。乱暴に取り扱うと、光磁気ディスクが破損してデータの一部、またはすべてを失うことがあります。
- うまく本製品にセットできないときは、無理な力を加えてセットしようとせずに、いったん本製品から光磁気ディスクを取り出して、セットする方向や向きを確認してください。
- 本製品で使用できないディスク(3.5インチフロッピィディスクなど)をセットしないでください。本製品の故障の原因となります。
- 光磁気ディスクに貼り付けるラベルは、付属のラベルを使ってください。また、ラベルは正しく光磁気ディスクに貼り付けてください。異なるラベルを貼り付けたままセットしたり、ラベルがはがれかかった状態でセットしたりすると本製品の故障の原因となります。

---

1 取り付けた本体装置の電源がONになっていることを確認する。

2 光磁気ディスクの表面(ラベルを貼り付けている面)を上側に向け、ラベル側が手前になるように持つ。

3 光磁気ディスクに示されている挿入方向マークに従って本製品のディスク挿入口にまっすぐに「カチッ」という音がするまで差し込む。

光磁気ディスクのイジェクト

- 光磁気ディスクはていねいに取り扱ってください。乱暴に取り扱うと、光磁気ディスクが破損してデータの一部、またはすべてを失うことがあります。
- お使いになる環境(コンピュータやオペレーティングシステム、デバイスドライバ、フォーマットソフトなど)によっては、光磁気ディスクを正しくイジェクトさせるために決められた手順を行う必要がある場合があります。詳細については、16ページを参照してください。
- 光磁気ディスクは取り付けた本体装置の電源をOFFにする前に必ず取り出してください。光磁気ディスクをセットしたまま取り付けた本体装置の電源をOFFにすると光磁気ディスク、または本製品が損傷するおそれがあります。
- POWER/BUSYランプがオレンジ色に点灯している間はイジェクトボタンを押さないでください。

1 取り付けた本体装置の電源がONになっていることを確認する。

2 POWER/BUSYランプが緑色に点灯していることを確認する。

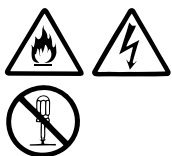
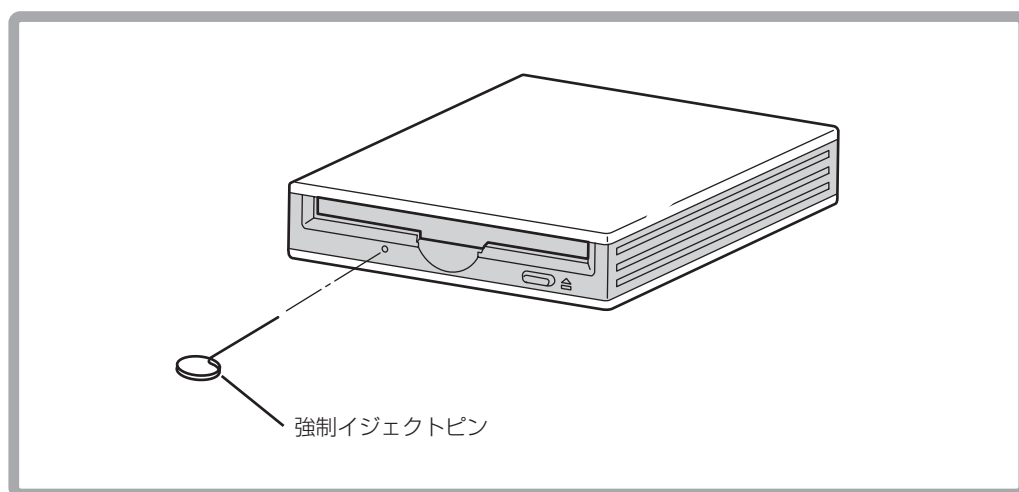
3 イジェクトスイッチを押す。

光磁気ディスクが自動的にイジェクトされます。

4 光磁気ディスクの端を持って、ゆっくりとていねいに本製品からまっすぐに取り出す。

光磁気ディスクは専用のケースに入れて、大切に保管してください。

光磁気ディスクの手動イジェクト

通常の方法で光磁気ディスクをイジェクトできなくなった場合のために、本製品に添付の「強制イジェクトピン」を使って、手動で排出することができます。

分解しない

本製品を絶対に分解しないでください。感電、または火災の原因となります。手動イジェクトをしても光磁気ディスクが取り出せない場合は、保守サービス会社に保守を依頼してください。

- 光磁気ディスクが通常の方法でイジェクトできなくなったときにのみ、ここで示す方法を行ってください。正常にイジェクトできるときに手動でイジェクトすると故障の原因となります。
- 取り付けた本体装置の電源がOFFの状態で手動イジェクトを行ってください。取り付けた本体装置の電源がONの状態で手動イジェクトを行うと、光磁気ディスク内のデータの消失や本製品、および取り付けた本体装置の故障の原因となります。
- 本製品に添付の「強制イジェクトピン」を使って手動イジェクトを行ってください。本製品に添付の「強制イジェクトピン」以外を使用した場合、本製品の故障の原因となります。

1 取り付けた本体装置の電源をOFFにして、しばらく待つ(約30秒)。

2 本製品前面にある手動排出孔に添付の「強制イジェクトピン」を差し込み、水平に強く押す。

光磁気ディスクがイジェクトされます。

3 光磁気ディスクの端を持って、ゆっくりとていねいに本製品から取り出す。

光磁気ディスクは専用のケースに入れて、大切に保管してください。

取り扱い上の注意　～大切なデータを守るために～

光磁気ディスクも他の記録媒体と同じようにデータの保全性が100%保証されているものではありません。光磁気ディスクに保存した大切なデータをメディアの欠陥やハードウェア的な誤動作などによる消失や破壊などの問題を回避するためにも次のような方法でデータを取り扱うことをお勧めします。

データのバックアップ

ここでは、万一の場合に備えてのデータのバックアップ方法について説明します。

正副2枚の光磁気ディスクにバックアップ

重要なデータまたはプログラムなどを保存する場合には、正副2枚にバックアップすることをお勧めします。
こうしておけば、一方の光磁気ディスクがゴミまたは塵埃などによってリードエラーを起こしても、もう一方の光磁気ディスクから復旧でき大切なデータやプログラムの消失を防げます。

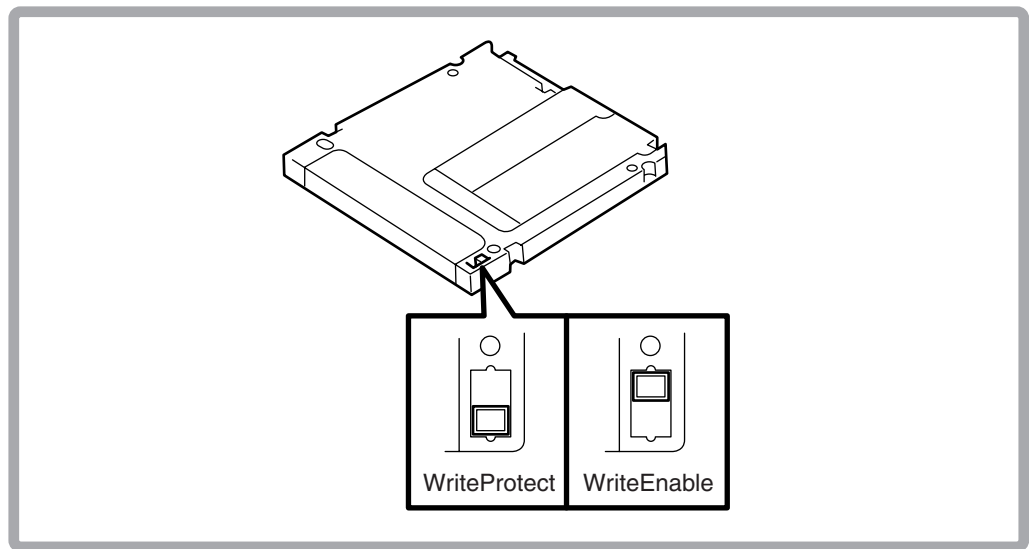
データの3世代管理について

ディスク上のデータをバックアップする場合、バックアップされたデータの3世代管理をお勧めします。
これは光磁気ディスクを3枚(A、B、C)使用して、1日目はディスクAにデータをバックアップしたならば、2日目にはディスクBにバックアップし、3日目にはディスクCにバックアップし、A→B→Cと順番にデータをバックアップしていくものです。
こうしておけば、ディスクCがリードエラーを起こしたとしてもディスクBのデータを使用すればデータは復旧できます。また、ディスクBがリードエラーを起こしたとしてもディスクAのデータを使用することで大切なデータは復旧できます。

ディスクのライトプロテクト

重要なファイルが保存されている光磁気ディスクをセットしているときは、ライトプロテクトをしてください。災害や停電による突然の電源OFFなど万一のときにもディスクの中のファイルは保護されます。また、誤操作によるデータの消失を防ぐことができます。

光磁気ディスクには、データを不用意に消去しないよう、ライトプロテクトスイッチがついています。光磁気ディスクを本製品にセットする前に、光磁気ディスク底面のライトプロテクトスイッチの状態を確認してください(次ページの図を参照してください)。
ライトプロテクトスイッチをライトプロテクト(WRITE PROTECT)側にセットするとディスクにデータを書き込めない状態になります。書き込みができる状態にするには、スイッチをライトイネーブル(WRITE ENABLE)側にセットします。

ライトプロテクトスイッチは「カチッ」と音がするまで確実にスライドしてください。また、スイッチを不安定な位置にしたまま使用しないでください。

日常の保守（クリーニング）

本製品、または光磁気ディスクを長期間使用していると、本製品のリード／ライトヘッドや光磁気ディスクのデータ面にほこりや汚れが付着してデータを正しくリード／ライトできなくなることがあります。
このような問題を起こす前に、定期的なクリーニングをすることをお勧めします。

本製品のリード／ライトヘッドのクリーニングには、添付のクリーナディスクを使用します。

オプションデバイスの活用

バックアップデバイスは光磁気ディスクだけとは限りません。別売の磁気テープドライブなどを利用するのも1つの方法です。
また、ディスクアレイコントローラや無停電電源装置などを使って取り付けた本体装置やシステム全体の冗長性の向上をはかるのも重要な手だての1つです。これらのバックアップシステムの構築についてはご契約の保守サービス会社、またはお買い求めの販売店までお問い合わせください。

第3章　クリーニング

本製品、および光磁気ディスクを安全に、かつ正常に使用するため、定期的に本製品のクリーニングを行ってください(光磁気ディスクの取り扱いについては27ページでも説明しています。ご覧ください)。

本製品のクリーニング

本製品のクリーニングには、装置外観のクリーニングと本製品のリード／ライトヘッドのクリーニングがあります。

装置外観のクリーニング

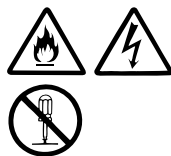
光磁気ディスクの挿入口などにほこりが溜まらないよう、定期的に装置のまわりをクリーニングしてください。

ヘッドのクリーニング

長期間、本製品を使用していると、ゴミやチリなどが本製品のリード／ライトヘッドに付着してリード／ライトエラーを起こすことがあります。本製品に添付のクリーナディスクを使用して定期的にリード／ライトヘッドをクリーニングしてください。

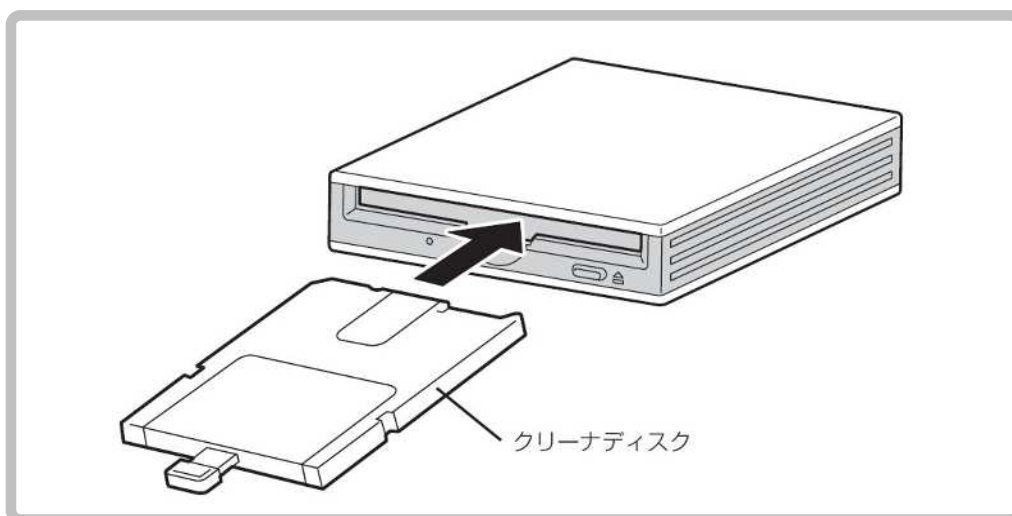
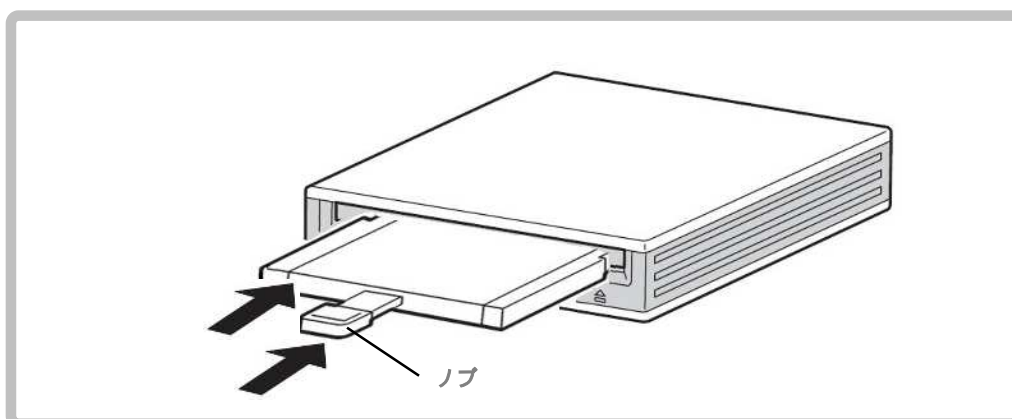
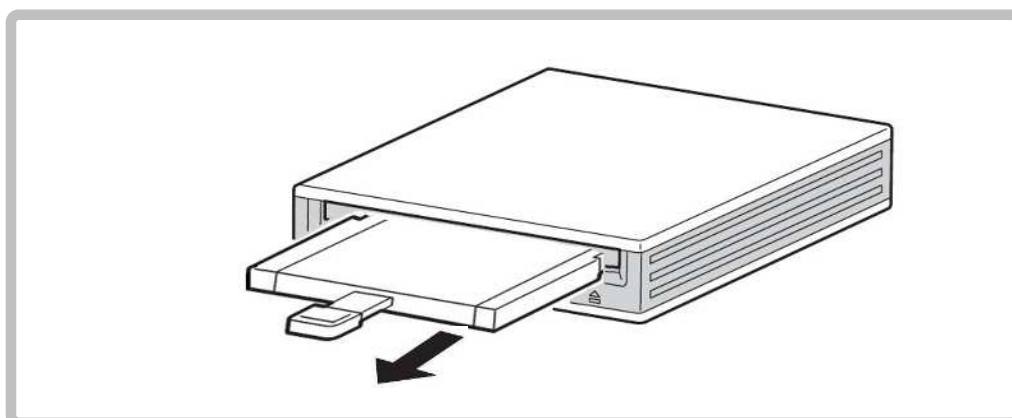
クリーニングの周期は設置環境により異なりますが、1～2か月に1回程度を目安にクリーニングしてください。

- 本製品に添付されているクリーナディスク以外のクリーナを使用しないでください。誤動作、および故障の原因となります。
- クリーナディスクを分解、または改造、修理しないでください。誤動作、および故障の原因となります。

警告

分解しない

修理技術者以外の人は、絶対に分解・修理・改造を行わないでください。感電したり、発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

以下の手順にしたがって、クリーニングを行ってください。

1 本製品の電源を ON にして、クリーナディスクを止まるところまで軽く押し込む。この時、クリーナディスクは本製品前面より約 30mm 出っ張っている。

2 バネによる反発があるが更に約 6mm 押し込み、止まったところで押さえながらクリーナディスクのノブを軽く 10 回押す。

3 クリーナディスクを持って、取り出す。

4 クリーナディスク上のラベルに使用回数のチェックを記入する。
使用環境によるが、クリーナディスクは約 100 回使用できる。

第4章　障害処理チャート

本製品が思うように動かないときはこの章で示す障害処理チャートを参照して障害の原因を確認してください。

警告

分解・改造・修理をしない

修理技術者以外の人は、絶対に分解・修理・改造を行わないでください。感電したり、発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

障害処理チャート(1/2)

内　容	原　因	対処方法
動作しない	本体装置の電源がOFFになっている	本体装置の電源をON (POWERランプ点灯) にしてください。
光磁気ディスクをセットできない	ディスクの挿入方向が間違っている	ディスクを正しい向きにして差し込んでください。
	すでに別のディスクがセットされている	セットしているディスクをイジェクトしてからセットしてください。
イジェクトスイッチを押しても光磁気ディスクがイジェクトされない	BUSYランプが点灯している	BUSYランプが消灯してからイジェクトスイッチを押してください。
	オペレーティングシステムによってイジェクトボタンの機能が制限されている	使用している環境によっては、イジェクトスイッチを押してもイジェクトできない場合があります。それぞれのマニュアルを参照して手順に従った方法でディスクをイジェクトしてください。(本体装置のトラブルにより排出できない場合も考えられます。この場合には、いったん本体装置の電源をOFFにして、手動イジェクトでディスクをイジェクトしてください。)
データのリード (読み取り) ができない	他のコンピュータやオペレーティングシステムで使用していた光磁気ディスクをセットしている	別の装置で書き込んだ光磁気ディスクや、使用している環境に合わないフォーマット形式の光磁気ディスクのデータは読み取ることができません。本製品、および本体装置の仕様や環境に合った光磁気ディスクを使用してください。
	急激な温度変化を与えた	急激な温度変化のために光磁気ディスクや本製品が結露していることが考えられます。急激な温度変化があった場合は、1時間以上待ってから使用してください。
	ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドが汚れている	ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドをクリーニングしてください。

障害処理チャート(2/2)

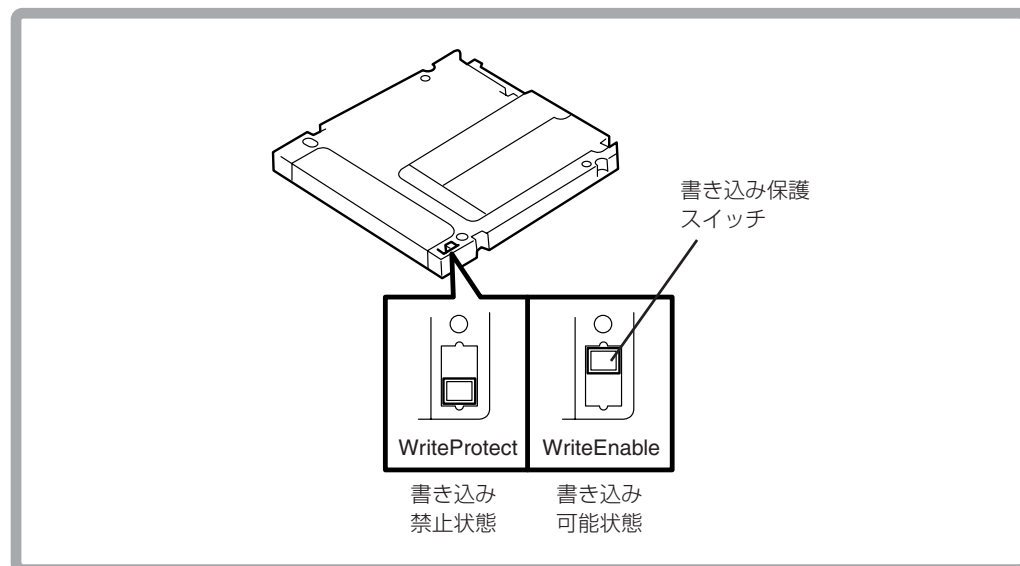
内　容	原　因	対処方法
データのライト（書き込み）ができない	光磁気ディスクがライトプロテクトされている	光磁気ディスクのライトプロテクトスイッチをライトイネーブル（WRITE ENABLE）側にセットしてください。
	光磁気ディスクがフォーマットされていない。または、本製品や本体装置の環境に合っていない形式でフォーマットされている	光磁気ディスクを本製品や本体装置の環境に合った形式でフォーマットしてください。（記録しているデータが必要な場合は、別のディスクを使用してください。）
	使用している環境温度が低すぎる	使用環境温度が10℃以下の場合は、リードできてもライトできないことがあります。使用環境温度を10℃以上にしてから使用してください。
	急激な温度変化を与えた	急激な温度変化のために光磁気ディスクや本製品が結露していることが考えられます。急激な温度変化があった場合は、1時間以上待ってから使用してください。
	ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドが汚れている	ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドをクリーニングしてください。
フォーマットに異常に時間がかかる	ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドが汚れている	ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドをクリーニングしてください。

付録A　仕　様

データ転送速度	最大60MB／秒
平均シーク時間	140ms
平均回転待時間	6.5ms（128MB/230MB/640MB） 9.3ms（1.3GB）
外形寸法	107.6mm（幅）×120.0mm（奥行き）×23.3mm（高さ）
質量	約320g
USBインタフェースケーブル線長	約800mm（コネクタ部含まず）
電源	DC+5V:　0.5A
消費電力（平均）	
［パワーセーブ時］	1.0W
［ランダムライト時］	2.5W
環境条件	
［動作時］	温度　10℃～35℃ 湿度　20%～80%（結露しないこと）

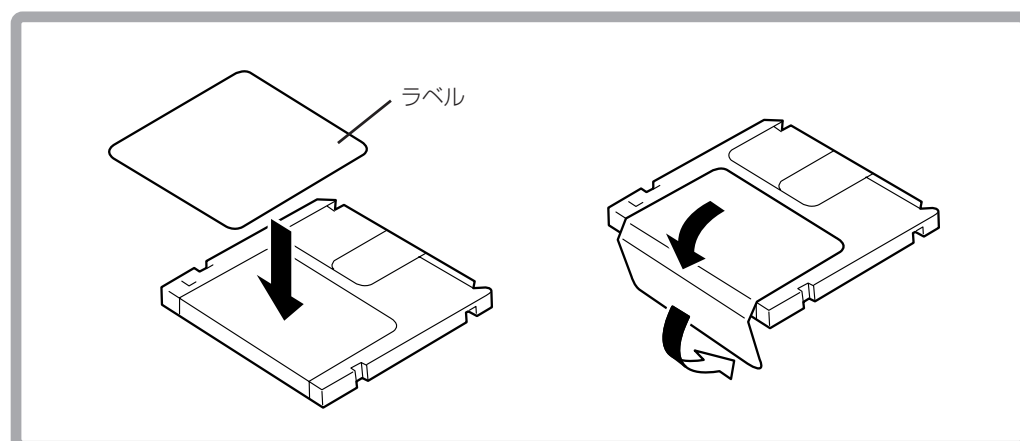
付録B　光磁気ディスクについて

本製品で使用できる光磁気ディスクは、3.5型(直径9センチ)の光磁気ディスクです。購入されたときにはプラスチック製のケースに収められています。

光磁気ディスクの取り扱い上の注意

記録済みまたは記録されていない光磁気ディスクを長持ちさせるために、次の点に注意して光磁気ディスクを取り扱ってください。

- 光磁気ディスクを落としたりたたいたりしないでください。光磁気ディスクが破損するおそれがあります。また、破損した光磁気ディスクを本製品にセットすると、本製品自身も損傷するおそれがあります。
- 光磁気ディスクを、コンピュータのモニタ、モータ、およびビデオまたはX線を使用する機器など、電磁波による電波障害の発生源の近くには置かないでください。光磁気ディスクのデータが損なわれることがあります。
- 光磁気ディスクは直射日光を避け、ヒータその他の熱源から遠ざけて保管してください。
- 光磁気ディスクは、室内温度－10℃～50℃、湿度10%～90%のほこりのない場所で保管してください。光磁気ディスクを使用するときは、温度勾配15℃／時間(1時間に15℃以内の温度変化)で室温(温度が10℃～35℃、湿度が20%～80%)に戻してから使用してください。
- 光磁気ディスクは、常に添付のプラスチック保護ケースに収納し、ポリ袋に入れて密封してください。
- ラベルは、光磁気ディスク前面にある指定場所以外の場所に貼らないでください。
- 光磁気ディスクやシャッター部分を強く押さえたり、シャッターを手で開けたりしないでください。
- 光磁気ディスクのデータ面を手やもので触れないでください。
- 飲食や喫煙をしながらの取り扱いは避けてください。
- 光磁気ディスクは、専用のプラスチック保護ケースに入れて水平、または垂直な状態にして保管してください。
- 光磁気ディスクの上にものを置かないでください。
- 本製品に挿入するときは、ていねいに取り扱ってください。

光磁気ディスクのライトプロテクトスイッチ

光磁気ディスクには、データを不用意に消去しないよう、ライトプロテクトスイッチがついています。
ライトプロテクトスイッチをライトプロテクト(WRITE PROTECT)側にセットするとディスクにデータを書き込めない状態になります。書き込みができる状態にするには、スイッチをライトイネーブル(WRITE ENABLE)側にセットします。

ライトプロテクトスイッチは「カチッ」という音がするまで確実にスライドしてください。また、スイッチを不安定な位置にしたまま使用しないでください。

ラベルの取り付け位置

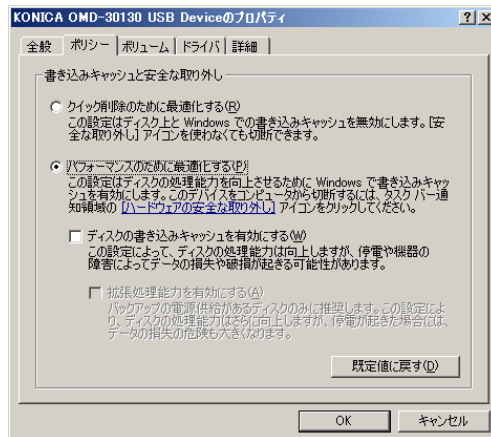
ラベルは、光磁気ディスクの上面に取り付けます。光磁気ディスクと記録されたデータ内容を一目で確認することができますので、必ずデータの内容を添付のラベルに記載してから光磁気ディスクに貼り付けてください。

ラベルを貼り付けた後に、ボールペンなどペン先が硬いものでラベルに書き込まないでください。

付録C　フォーマットに関する注意事項

Windows Server 2003について

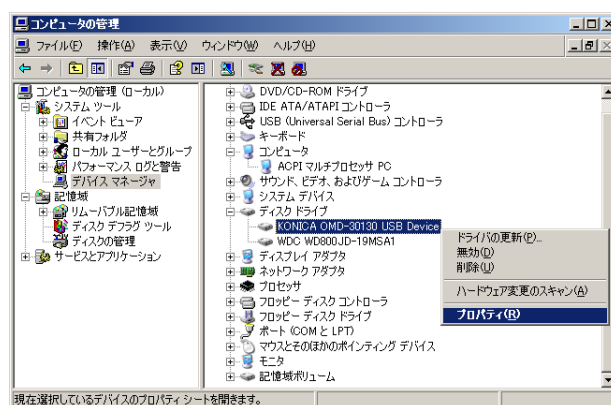
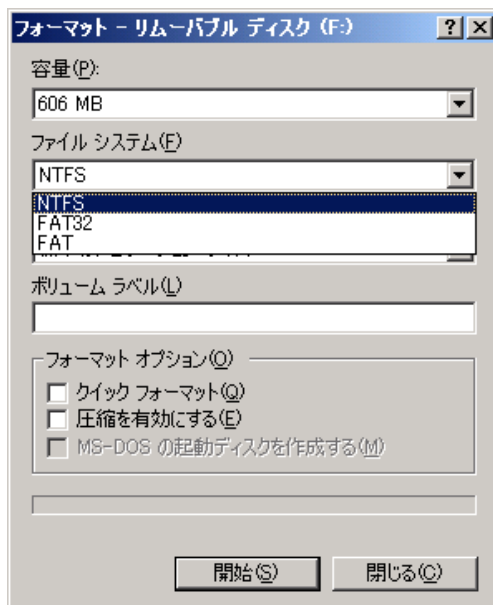
本製品は、OSの仕様によりWindows Server 2003[32bit/64bit]では、ブランクメディア(未フォーマットの光磁気ディスク)をNTFSでフォーマットすることができませんので、FAT/FAT32でフォーマットを行ってください(NTFSフォーマット済みの光磁気ディスクの書き込み/読み込みは可能です)。
やむをえず、NTFSフォーマットを行う必要が場合は、以下の手順により実施可能となります。

ただし、NTFSフォーマットを利用可能にする設定をした場合、OSの仕様によりシステムの性能が大幅に低下するため、推奨しません。

NTFSフォーマットを有効化する手順

次の手順に従ってOSの設定を変更します。

1 [コンピュータの管理]を起動し、[デバイスマネージャ]をクリックする。

2 デバイスマネージャが起動したら、[ディスクドライブ]アイコンを展開する。

3 [KONICA OMD-30130 USB Device]にマウスカーソルを合わせて右クリックし、[プロパティ]をクリックする。

4　[KONICA OMD-30130 USB Device] のプロパティが開いたら[ポリシー]をクリックして下記の画面通りに[パフォーマンスのために最適化する]を選択し、[OK]をクリックする。

以上でOSの設定変更は完了です。

NTFSフォーマットを有効化しても[ディスクの管理]からは、NTFSフォーマットは選択できません。エクスプローラのドライブアイコンを右クリックし、表示されるフォーマットメニューから選択してください。

表示例

Windows Vista(32bit)について

OSの仕様によりWindows Vista(32bit)では、[コンピュータの管理]-[ディスクの管理]による1.3GBおよび640MB光磁気ディスクのフォーマットが実施できません。

1.3GBおよび640MB光磁気ディスクのフォーマットは、エクスプローラのドライブアイコンを右クリックしたときに表示されるフォーマットメニューにより実施してください。